（郵便書籍可）　（本號六面）　明治二十三年四月十七日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千六百二十七號　木曜日
明治廿三年四月十七日
舊曆庚寅二月廿八日　（戊辰）
日出午前五時八分　入午後六時二十四分
月出午前四時十分　入午後三時五十七分
機關　午後四時零四分

（西曆一千八百九十年）

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價還送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ還送料ヲ要ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

國會開設前に商法會議所を改良すべし

昨年中佛國巴里在留倫敦タイムス通信員は佛國財政事情と題する一篇の大文字を草して之をタイムス紙上に掲げ讀者の稱嘆を博したるとありしが其文中佛國代議院の段に至りて佛國代議院は大半代言人操觚者醫師其他此流の人より成り立ち重も立ちたる商工家銀行者及び大地主等の連中は僅に其小部分を占むるのみならず彼の代言人以下の者は其職業上に於て饒舌の天賜を有すると商工者流の及ぶ所に非ざれば佛國政府は多情多慾なる黙心家、無經驗ある愛國家にして然かも身に財産とてはあく多くは代議士として領收する年金を以て生活する人々の手に落ち本來實地政治上の經驗なき人々が書籍上にて集め想像上にて畫きたる絶對單純の理論を以て實地政治を適用せんとするが故に改革進歩を愛すと云ふ其過激なる愛情も經國家流の經驗を以て充分に鍛へたるものに非ず左れば改革を一擧に企て終始極端に走るのみならず其所謂改革と云へる意向の如きも常に反抗敵對と云へる根底より發するの趣おきを得ず云々の一節あり因て顧みて我國の形勢を考へ本年開設する國會に如何なる議員が撰擧せられて其多數を占むり可きやと云ふに代言人新聞記者等を始め其職業上に於て饒舌の天賜を有する者の類を以て之れに答ふるの外なかるべく重も立ちたる商工家銀行者及び大地主等が其一小部分を占めて代言人以下の者が專ら議場に跋扈するの趣は或は彼の佛國代議院に類するものなしと云ふ可らず若し果して然らんには多情多慾なる黙心家無經驗なる愛國家が讀書想像上より得たる絶對單純の理論を以て實地の政治に適用し改革進歩に急にして國家經濟上の大問題を過激に決するの弊おしと云ふ可らず我邦の掛念する所なり蓋し身に財産なき者は責任輕くして實地商工上の痛痒を感ずるみと切ならざればあり從前農商務省等より發行したる條例規則よりして直に商工の事に關するもの〳〵中には往々絶對單純の理論を根據にし或は輕々に西洋流を採用して無理に我商工の實際に行はれしめんとし之が爲めに大に民利を害して無率の商工を苦めたるみとなきに非ず都て是れ輕率の條例規則にして議者の竊に嘆息する所なり責任もあり熱線もありと稱する政府に於て倚且斯の如し況んや新國會の新議場に饒舌理論を逞ふするに於てをや隨分安からざる事情と云ふ可し左れば彼の商工家銀行者大地主等を始めとして實業の局部に當る者は縱令へ自から國會議員と爲りて饒舌理論家と相當り其社會の爲めに謀りて立法上の弊害を防ぐと能はざるも他に此國會と相對して其意見を代表するの場所を作り凡そ實業上に就ては間接直接國會議員の議論を支配するやうの機關なかる可らず即ち今日の處にて其機關に供す可き者は商法會議所の外なかる可しと雖も如何せん此商法會議所は從來一局部の人の集合にして商工社會全體を代表したるものにもあらず眞實商工の衆智を集めて群力を伸るものにもあらずして其地位自から重からざるが故に右等の機關として之に依賴するに足らず故に國會に對して商工の意見を纏め一團體の媒介を爲して之れに通せんとするには今の商法會議所を變じて之れに適するの形と爲し以て其効用を全ふするの工風なかる可らず我邊の竊に冀望する所なり今英國風の商法會議所は商工銘々の社會の爲めに斯る會議所の必要を感じ銘々評議相談の上、その社會相應の規約を作りて商工同士に組織しさる者にして初めより官員政味を帶ひず純然たる民立の會議所なれば其會員の撰擧の如きも商工全體並に之れに關係ある人々を網羅し例へば倫敦商法會議所に就て申せば商業社會に名ある人々、或は商社を代表する人々、同業組合の代理員、此外エキスオフヒシコ會員と稱して倫敦府知事、府内出身の國會議員英蘭銀行總裁、株式取引所頭取等何れも會員に列するの定めにして倫敦マンチエスター、リヴアプール等の商法會議所中には會員總數二三千八人に達するものありて此多數の所員より幾十名の常置評議員を撰み其評議員中に商法律部委員、一般商業部委員等を置くの外に更に國會部委員ある者を置て其向きの事務を調査せしめ商工業上國會の評決を要する事件は兼ねて其商法會議所員たる土地出身の國會議員を經るか或は政府黨員中夫れ〳〵の向きに訴ふるか或は反對黨方にて名高き人々の手を煩はすか事件に因り箇條に應じて其方法は種種あれども商工社會全體の意見は商法會議所の媒介を以て國會若くは政府に傳はり國會若くは政府にても商法會議所の意望を以て商工社會の意望と見做し商工業上重要の事件は一應之を會議所に附して其意見の在る所を聞き始めて之を施行するの都合にして彼の商法會議所は内國商工の事のみならず諸外國との通商條約、領事の設置等に至るまで暗に其勢力を及ぼし凡そ商政上の事項に就ては政治家も實際一歩を譲りて每事に之れに相談するの趣あるを見る可し即ち英國あるの國會政治が彼の商工業に對して敢て不當の規則を造らず又其干渉の道を誤らざる所以にして我國にても國會を開きて之を立法の府と爲す以上は其國會と商法會議所との關係を恰も彼の英國の如くあらしめ商工業上に關する事項は商工社會の公議に依りて利害得失を決し政治家に向ては唯其制法の手續を依賴するまでに止まるの趣向なかる可らず然るに今日我が商法會議所の有樣を見れば所員の數も甚だ少く組織も不整頓にして之れに關係する人々も或は一局部の人に偏し或は充分の助力を盡くさずして政治社會の人は勿論、商工社會の人にてありおがら自から其會議所に重きを置かざる程の次第にして國會と相對峙するあと思ひも寄らざる勢なれば本年國會開設の前に於て大に改良を加へて會議所中に國會部委員を置き又其地方出身の國會議員は之を會議所員に列して國會と會議所との聯絡を通ずる等夫れ〳〵の用意肝要なる可し斯く云へばとて我邦は我が商工社會の獨立をまを嘶るものなれば政府が俄に條例を發して會議所の組織を變更するとを望むに非ず條例に迫ひ剛はされて狼が狽舞はしに使はる〳〵が如く横になり縱におるやうの始末とては俗に所謂狼眞似まして眞の狂言は望む可らず嚔我が商工社會の人は今日國會開設前に際して自ら奮ふて商法會議所の改良を任じ多情多慾なる黙心家、無經驗なる愛國家をして商工社會を蹂躙せしめざるの覺悟あらんみとを願るのみ

官報

○警察令第八號
明治十三年四月甲第十九號布達ヲ廢ス
明治廿三年四月十六日　警視總監子爵田中光顯

警視令第八號參照
東京警視本署甲第十九號布達（明治十三年四月十四日、本月太政官第十二號布告集會條例施行候ニ付右集會ヲ爲ントスル者ハ開會三日前（日曜並大祭日等ハ算入セス）午後第十時迄ニ其管轄警察分署ヘ屆出ヘシ此旨布達候事）
但集會ニ係ル從前當署布達ハ總テ廢止ト心得ヘシ

雜報

○金融救濟策の建議　大坂商法會議所に於て去る十三日の午後八時より常議員會を開き兼て役員より提出したある金融救濟策を討議せし要領を聞くに客年來金融逼迫の慘狀は忽ち諸會社の株式に及ぼし其下落を來せし事、實に非常にして商賣社界は殆んど困難の極に達したり畢竟其筋より直接若くは間接に勸誘せし新事業の創設其度に過ぎ流通資本の巨額を固着に歸せしめ其他種々の原因より此結果を致せしものならん去りながら主因たるは全く資本の欠乏にあり蓋に制限外兌換券の發行を見るに至り金融上些か引緩の形勢あり然して現今の金融引緩は只表面丈けの事のみにして銀行會社商人等は何れも流通の方便に困ひものあれば將來國家永遠の大策に至ては別に十分の考案を要すべきも只目下焦眉の危急を救濟するの方法は一般に資本融通の方便を開くに在るならん故に其方便は確實なる鐵道株其他商工業會社國立銀行等の株式を日本銀行の貸付抵當品に採用すべしとて目下の事情を充分に明瞭あらしめん爲め金融逼迫の原因を取調べて大藏大臣に上申するに決し取調委員には矢野辛大藤高敏の兩氏當撰して散會したるよし

○委員副長の囑托　日本赤十字社德島縣委員副長の補欠として高津輝氏を撰擧し上奏を經て囑托せりと

○大隈伯の答禮　當時上京中の各地有志者が去る十四日大隈伯全邸の祝宴を催はせしに同伯は其答禮として翌十五日午後五時より右の諸氏を上野公園の櫻嶺臺に招待して宴會を開き席上令息英麿氏伯に代て謝辭を演べ來賓の總代として嶋田孝之氏謝意を表し夫れより酒盃獻酬の間主客打解て十分の歡を盡し午後九時頃散會せしよし

○市區改正委員會　明十八日委員會を開くよし

○神戸港内の内外軍艦　天皇遊ばさるゝ神戸の觀艦式に去る十三日神戸發の報に依は内國艦十九艘、外國艦二艘なりと

○立田艦の出帆　新任參謀長は内國艦十九艘、外國艦二艘なりと

○學力檢定　本年前期小學校は廿一日より小石川竹早町東京丸に行はるるよし

○優等生に賞與　今度殿下の敎育會と義なり偏に學校にて去る十四日坂本町坂本小學優等生へ賞品を授與し二百九十八名ありしと又同日正午横濱出帆の東京丸に乘り廿七日同唱歌科なりと

○横濱の出帆　明十八日の出帆は内國艦十九艘、外國艦二艘なりと

○横濱金融の緩慢　金融逼迫の慘狀は

○横濱の出帆　明十八日の出帆は内國艦十九艘、外國艦二艘なりと